

# 果樹カメムシ類の発生および被害に注意

令和6年6月

J A全農ちば 営農支援部

5月10日に県農林総合研究センターより果樹カメムシの多発のおそれがあるとして、病害虫発生予察注意報が発表されています。注意報によりますと県内 10 地点に設置しているチャバネアオカメムシ集合フェロモントラップの4月の1日当たり誘殺数は4.4頭(平年値0.6頭)で、過去10年間と比較して最も多くなっています。

カメムシが多発する見込みのため、防災網などは早めの展張をし、追加の薬剤防除をすることで対策をしましょう。

## 1、果樹カメムシ類の生態

気温が上昇してきた4月頃、越冬場所から動き出したカメムシ類は、6月頃にかけて植物の新梢やカンキツなどの花、サクラ、ウメ、ビワ、クワの実などを吸汁します。越冬成虫量が多い年には、多数飛来してカンキツやウメ、ビワなどの新梢や花、果実を吸汁して落果させることがあるため、注意が必要です。6月下旬～7月頃になると主要な餌であるヒノキやスギの毬果が成熟するので、毬果上に移動して産卵、増殖します。ヒノキ毬果上で増殖したカメムシ類の成虫は、台風等の風にあおられたり、毬果が餌として不適になったりすると果樹園へ飛来してナシやカキ、カンキツ等の果実を吸汁するため、果実の変形や落果が発生します。9月を過ぎ、段々と夜温が下がり始めるとカメムシ類の活動時間は鈍くなり、10月下旬頃には越冬場所へと移動します。

果樹カメムシの生態として以下の三種が被害を多く出すと言われていますが、特にチャバネアオカメムシがナシなどの果樹園で見かけることが多いです。果樹カメムシの体長は1～2cm程度であり、チャバネアオカメムシが一番小さいサイズとなります。

チャバネアオカメムシ



越冬場所：広葉樹の落葉下

クサギカメムシ



越冬場所：樹の粗皮下や  
建物の隙間

ツヤアオカメムシ



越冬場所：常緑広葉樹の樹冠内

## 2、防除対策

(1) 果樹カメムシ類は、各種樹木の果実等を移動しながら吸汁しており、果樹園への飛来状況は地域や園により異なるので、園内をこまめに見回り、飛来を確認したら早急に薬剤防除を行いましょう。

(2) 夜行性のカメムシ類は日没後2時間ほどしてから見られるため、有効な薬剤を夕方散布します。散布作業が始まると園外へ飛散しようとするので、地域で一斉防除することが理想的です。

(3) ナシでは多目的防災網(9mmクロス目合い)や防虫ネット(4mm目合い)で園全体を覆う状況を作りましょう。

(4) 防災網を展張する場合や早めにピレスロイド系の薬剤を散布する場合、ハダニなどの発生が助長される可能性がありますので、圃場内の観察を実施しましょう。



カメムシ被害果

## 3、薬剤防除

### ● ナシ カメムシ対策剤一覧

系統名	IRAC コード <sup>※</sup>	商品名	倍率(倍)	使用前日数	使用回数
合成 ピレスロイド系	3A	テルスターフロアブル	3000	前日	2回
		ロディー水和剤	1000	前日	2回
		アグロスリン水和剤	1000	前日	3回
		マブリック水和剤 20	2000	30日	2回
ネニコチノイド系	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000	前日	3回
		アドマイヤー水和剤	1000~2000	3日	2回
		バリアード顆粒水和剤	2000~4000	前日	3回
		アクタラ顆粒水溶剤	2000	前日	3回
		ダントツ水溶剤	2000~4000	前日	3回
		スタークル顆粒水溶剤	2000	前日	3回